

方形周溝墓と出土土器

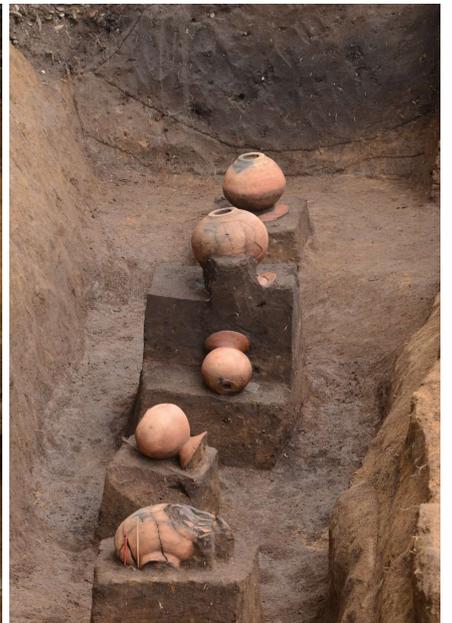
方形周溝墓とは、弥生時代前期の近畿地方で始まった方形の溝によって区画された墓で、弥生時代中期から古墳時代前期にかけて、主に東日本で盛んに築かれました。

桶川市内では、弥生時代後期の砂ヶ谷戸Ⅱ遺跡、古墳時代前期の西台遺跡などで発見されています。

若宮Ⅰ遺跡では、集落に隣接して方形周溝墓群があり、その溝からは、葬送の中で供えられ、底に孔を穿たれた壺型土器（底部穿孔土器）が発見されています。



C調査区方形周溝墓 遺構確認状況



壺形土器出土状況



方形周溝墓出土土器



二重口縁壺 - 底部穿孔土器 -